

令和 4 年 6 月 29 日現在

機関番号：32675

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K01974

研究課題名(和文)現代都市再開発期における「労働-生活」空間の編成と社会的排除に関する国際比較分析

研究課題名(英文)An international analysis of Restructuring Work and Life and Social Exclusion in Urban Redevelopment Era.

研究代表者

田中 研之輔(KENNOSUKE, TANAKA)

法政大学・キャリアデザイン学部・教授

研究者番号：30513204

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、現代都市再開発期における「労働-生活」空間の構成と社会的排除に関する、<社会-空間の動的関係>を国際比較分析に取り組んできた。具体的には、1 国内の労働現場の空間・組織編成に関する研究を著作として発表した。また、2 米国とアジア諸国での労働現場に関する文献調査を実施した。その上で 3国内・海外のそれぞれの事例をこれまで17年間にわたり継続的に行ってきた。本研究では、国際比較研究として世界的にも注目に値する 先端事例分析法(Extended Case Method)を用いた。研究実績の成果として多元的資本論を整理した『プロティアン』(日経BP社)を出版した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究実績の成果として多元的資本論を整理した『プロティアン』では、ブルデューの多元的資本論をダグラス・ホールのプロティアンキャリア論に接続させた。一般読者に広く読まれている点は、研究成果の社会還元という視点で特筆に値すると言えよう。特に、社会学的なフィールドワークアプローチを用いて、労働現場に入り、キャリア形成の過程を総合的に分析した。空間は労働現場に限られたものではあるが、特に、組織編成について詳細な分析を行った。また、海外での比較調査に向けて、現地文献調査も継続してきた。しかしながら、コロナ・パンデミックに伴い海外調査の中断は余儀なくされ、現地フィールド調査は今後の課題となる。

研究成果の概要(英文)：This project focus on an international analysis of restructuring work and life and social exclusion in urban redevelopment era. First, this work published a book on the space and organizational structure of domestic labor sites. Second, it conducted a literature review on workplaces in US and Asian countries. Third, this research has been conducting each of the domestic and overseas cases continuously for the past 17 years. In this study, we used the Extended Case Method, which is notable worldwide as an international comparative study. Finally, this research project published "Protean", which summarizes the multidimensional capital theory.

研究分野：労働現場のフィールドワーク

キーワード：エスノグラフィー 多元的資本論 社会的排除 「労働-生活」空間

1. 研究開始当初の背景

現代都市は、ヒト、モノ、情報を集積する<社会 - 空間>であるだけでなく、そこには巨額の資本が集中する。資本は都市を活性化させる中核的な触媒である。だが、この資本が創り変える都市の<社会 - 空間>は、必ず、社会的な格差や空間的な隔離を内包している。そうした社会格差や空間的隔離による社会的リアリティの分析と把握について、組織エスノグラフィーという研究方法は、構造から抜け落ちる日常的な生や語りに肉薄する科学的な可能性を内包している。本研究でコロナパンデミックによる歴史的転換や変化に着目した。現代都市の空間を再開発させる資本の論理やそれを駆動させる国家戦略を捉えるのは、マクロ構造の把握なくして、調査対象の日常構成を捉えることはできないと考えているからである。

本研究の前提として、次の四点の歴史的・社会的変化が関連する。第一に、都市滞留層の激増である。とくに、1970年中期以降に米国でみられるのは、フォード主義の衰退にともなう安定的賃金労働者の減少とそれと反比例して激増した不安定賃金労働者が増加した。不安定層の増加は、第二に、社会的精神的不安の上昇 + 蔓延である。そして、第三に、グローバルな資本と労働の流動化である。これらの問題は、生起時期や程度差はあれ、先進諸国において共通にみられる歴史的変化であり、わが国でも議論されている問題群である。これらの社会歴史的変化の生産・再生産の駆動要因となっているのが、新自由主義政策下の国家の経済的義務の縮小であり、空間的滞留層への強行施策である。そして第四に、コロナパンデミックによる現代都市空間の社会的・構造的転換と変化である。労働現場でも職場を前提とした対面勤務から場所を問わない(placeless)働き方も進展した。しかし、これらの新たな働き方は、全ての労働者に導入されたわけではなく、労働形態や労働環境に関して、新たな社会的格差が生じていることが容易に想像される。

そこでこれらの研究蓄積を踏まえて本研究では、「労働 - 生活」空間の編成・再編成と<社会 - 空間の動態的關係>について組織民族誌(Organizational Ethnography)を用いた(国際)比較分析に着手する。

社会的排除の概念は、1980年代にフランス、90年代初期以降にはイギリスで用いられるようになり、野宿生活者、シングルマザー、単身高齢生活者、若年失業層にアプローチし、従来の「労働からの排除」ではなく、「労働の現場の手前あるいは外部での生活を強いられる社会からの排除」に着目し、とくに、社会的排除を生み出すプロセスに着目した。わが国においても、岩田・西澤らが、野宿者・単身女性親世帯・外国人労働者ら 貧者 の社会的排除の問題に取り組んできた(岩田正美・西澤晃彦編 2005 『貧困と社会的排除』ミネルヴァ出版)。いわば、「新たな貧困層」を生み出す社会的メカニズムの過程を捉えることに社会的排除論は用いられてきた。社会的排除論は、当事者の生活世界をとりまく巧妙な排除のプロセスを可視化するのに有効な視点を提起した。社会的排除論は、「新たな貧困層・周縁層」が工業化からポスト工業化社会への移行にともなう産業構造・就職機会構造の変化によって生み出されてきたことを前提とする。

この社会周縁層の空間的滞留と社会的排除を押し進めてきたのが、国家であると捉える研究蓄積がある。国家は、ひとたび新自由主義化すると「上層階級から下層階級への『埋め込まれた自由主義』時代の流れを逆転させるような再分配政策の主要な担い手」(ハーヴェイ、2007、p.228)となり、「低賃金使い捨て労働者」、「不安定労働者」、「失業者」を多量に生み出

し、社会階層の底辺に位置する人々の労働環境・条件を悪化させる。1980年代から90年代にかけて、新自由主義の弊害は、労働市場の再編 - 分割による多量な失業者を構造的に生み出していくという社会的排除を社会問題化した。こうして新自由主義体制が加速させた現代社会の構造的・経済的变化の結果生み出された従来の社会保障制度では対応できない社会層に対して、イギリス・フランスでは、「社会的排除」論、米国では、「社会的周縁層」という概念を用いて検討が加えられてきた。欧米において社会的歴史的文脈は異なるものの、それぞれ別の概念でもって、同時代的に「新たな社会的不平等」が問題視されている経緯は注目に値する。

これらをもとに、本研究では、新自由主義レジームを推し進める国家レベル、大規模再開発により<社会 - 空間>を変容させる都市レベル、それらに翻弄されながらも、生きられる生活空間を創り出していく人々のローカルな生活世界レベルの3層の「構造 - 主体」連関構造を動態的に分析していく。

2. 研究の目的

本研究は、現代都市再開発期における「労働-生活」空間の構成と社会的排除に関する、<社会-空間の動態的關係>を国際比較分析によって明らかにすることを目的とする。本研究は、1 国内の労働現場の空間・組織編成に関する研究と、2 米国 とアジア諸国での労働現場のフィールド調査の結果をそれぞれ著作として研究成果を発表していく。その上で3 国内・海外のそれぞれの事例をこれまで申請者が17年間にわたり継続的に行ってきた『「労働-生活」空間の国際比較都市社会学』をまとめる集大成の3年間として位置づけている。なお、本研究は、先端事例分析法(Extended Case Method)を用いた国際比較研究として世界的にみても注目に値する研究である。

3. 研究の方法

現代都市再開発期における社会周縁層の空間的滞留と社会的排除に関する国際比較研究を進めていくために、本研究では、1) 社会政策過程分析 新自由主義国家の社会福祉政策と空間隔離の施策、2) 都市空間分析 「ジェントリフィケーション」「ゲイティッド・コミュニティ」、3) 労働・生活世界分析 先端事例分析法の三つの分析を進めた。

また、組織エスノグラフィーの国際比較研究に取り組んだ。組織エスノグラフィーの研究手法にすえ、都市に生起する様々な社会集団や組織を対象に、継続的な調査から分析を行ってきた。先端事例分析法(Extended Case Method)では、複数組織や集団の組織エスノグラフィーが可能となる認識論的枠組みを整理した。

4. 研究成果 書籍

- 田中研之輔 『Career Workout』(日経 BP 2022)
- 田中研之輔 『キャリア戦略』(ディスカバー・トゥエンティワン 2022)
- 田中研之輔 『プロティアンキャリア戦略』(アスコム 2022)
- 田中研之輔 『プロティアン教育』(キャリアナレッジ 2021)
- 田中研之輔 『ビジトレ』(金子書房 2020)
- 田中研之輔 『プロティアン』(日経 BP 2019)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 田中研之輔	4. 巻 -
2. 論文標題 キャリア自律と組織の成長を両立する新しいキャリア意識	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Learning Design	6. 最初と最後の頁 18-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 田中研之輔	4. 巻 -
2. 論文標題 身体を通じて都市に刻む	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Tired of 2021	6. 最初と最後の頁 48-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 田中研之輔
2. 発表標題 企業内キャリア形成の可能性
3. 学会等名 日本産業カウンセリング学会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 田中研之輔	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金子書房	5. 総ページ数 246
3. 書名 ビジトレ 今日から始めるミドルシニアのキャリア開発	

1. 著者名 田中研之輔	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日経BP	5. 総ページ数 216
3. 書名 プロティアン 70歳まで第一線で働き続ける最強のキャリア資本術	

1. 著者名 田中研之輔 山本和輝	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ハーベスト社	5. 総ページ数 226
3. 書名 辞める研修 辞めない研修	

〔産業財産権〕

〔その他〕

田中研之輔 ホームページ http://tanaken.info

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------